

酒田祭り考

そこに「学び」はあるか!?

2018.04.24

No.07

校長 渡邊 幸二

授業参観、そして学区歓送迎会へのご出席、本当にお疲れさまでした。4月の一大イベントが終わり、先生方も一息つけたと思います。どうか連休は自分の時間、ご家族との時間を大切にさせていただきたいと思います。ただし、連休に入る前は子どもたちに、交通事故がないような再度の指導をお願いします。(先生方もご注意ください)

連休が終わると、もう酒田祭りが目の前に迫ってきます。今からこんなことを言っても(4月はじめにもお話はしましたが)困ると思いますが、可能な限りでいいので取り組んでみてください。ただ、昨年度までの様子をまったく知らない者が話すことですので、失礼なことを申し上げるかもしれませんがご容赦ください。

授業として、学習として

さて、酒田祭りへの参加は、1～2年生は、生活、体育、学級活動がそれぞれ1時間の3時間扱いです。3年以上は総合的な学習の時間ということで3時間をカウントしているようです。実際の内容がそうなっているのではない、苦し紛れ(学校ではよくあること?)の時間配分であることは重々承知しております。



しかし、もし子どもたちが、保護者のみなさんが準備したレールに乗かって酒田祭りに「参加するだけ」だとしたら、初参加する身としてはちょっと違和感を感じてしまいます。おそらくそうではないと思うのですが、ただ祭りに参加する、パレードに参加する

るのであれば、それは「学習」としては成立しない、もったいない時間になってしまうということです。“宗教行事だから参加しない”という方も過去におられたということですが、ただ単に祭りに参加という形であれば、「授業なので参加すべき!」という反論ができません。

つまり、私たちは「祭りに参加する」のではないわけです。日本の伝統的な行事である祭りに参加することを通して、「……な子どもを育てる」ことが重要なはず。こちらが主たるねらいであり、祭りに参加するのはその学びのための手段であるというスタンスでなければなりません。



私は、浜田小学校の存在意義“「みんなと共に、みんなのために生きる」公益の心を育む学校”を考えてみても、酒田祭りへの参加は必要な教育活動になると考えています。そして、そういう活動となるように、教育課程が編成されていなければならないと思うのです。もし、この活動の「ねらい」も確認されないまま、つまり起案書がないままでこの活動が実行されているとしたら、**前例踏襲の活動の最たるもの**と言われても仕方ありません。



別に難しいことをやってくださいと言う気も先生方の負担を増やすつもりもさらさらありません。現在も酒田まつりに向かってやっていることの**意味・意義をきちんと確認して進める**ということです。もちろん必要があると思ったら、学年で相談して、学年に応じたねらいを精査し指導していけばいいと思います。

教育的な付加価値をつける

たとえば、子どもたちと話し合う中で、酒田祭りに参加するめあてを考えることになったとします。子どもたちはどんなことを考えるでしょう。これまでの蓄積がありますからきっと価値あるめあてを考えてくれるのではないかと思うのです。

- ◆元氣いっぱいのみこしで、酒田の町を明るくしよう！
- ◆地域の人とのコミュニケーション(明るいあいさつと交流)で、地域の一員として働こう！(地域の一員として働く大切さに気づく。)
- ◆酒田の町をきれいにしていることを、祭りを見に来ているみなさんにPRして、町をきれいにすること、ごみを分別収集してもらうことを伝えよう！
- ◆.....

それを受けて、「酒田の町が明るくなるよう、元氣な掛け声を出そう！」とか、こんな動きがあったら喜ぶだろうなんていう具体的な行動目標が出てくるかもしれません。ある学年の子どもは、「順番にゴミ袋を持って、ごみを拾えるトングも持ちながら、クリーンな酒田まつりにするために、お客さんにアピールしたい」という意見が出るかもしれません。お金がかかることなら、教頭先生に相談するよう子どもに働きかけてください。**あくまでも子どもたちが創る“酒田祭り活動”にすべきだ**と思います。何でも周りの大人や先生がしてしまうのは、**子どもの学びを阻害していること**になるということです。ちょっと考えてみて、少しでも実践に移すことができれば幸いです。